

試験日 : 2024年11月10日
入試種別 : 2025年度 3年次編転入学試験問題
学部・研究科 : 社会学部
科目名 : 専門科目(社会学)

解答例

問1

- ① 社会進化論 evolutionary theory of society
社会変動が生物の進化に近い方向性をもつと考える理論。
- ② アノミー anomie
社会規範の弛緩や崩壊によって生み出される欲求や行為の無規制状態。
- ③ ジェンダー gender
社会的・文化的に形成された男らしさ、女らしさ。
- ④ 逸脱行動 deviant behavior
社会や集団によって定められた規範に反する行動。
- ⑤ マージナル・マン marginal man
異質な規範や文化をもつ複数の社会・集団に、同時に所属している個人。
- ⑥ 多変量解析 multivariate analysis
3個以上の変量を同時に処理する統計的分析手法。
- ⑦ アイデンティティー identity
人格の一貫性および統合性を指す概念。
- ⑧ 社会学的想像力 sociological imagination
個人をとりまく様々な現象や問題を、社会の構造と結びつけて考えることができる能力。

問2.

回答例 a

20～30歳代の視聴者が、動画配信サービスが提供する映画やドラマを早送りで見るとの傾向が強いのは、若い世代ほど「タイパ」や「コスパ」を重視しがちだからと考えられる。

まず「タイパ」について、動画配信サービスでは新作・旧作を含め、無数ともいえる番組が提供される。そのなかから個人の趣向にあったものだけを選んでも、ごく一部だけしか視聴することはできない。できるだけ多くの番組を視聴しようとするれば、倍速での再生を選択する可能性が高くなる。

「コスパ」については、動画配信サービスのほとんどが定額配信であることと関係している。もし一本ずつの番組に視聴料を払う契約であれば、多くの人々はじっくりと視聴しようとするであろうが、どれだけの見ても同じ料金なら、できるだけたくさん番組を視聴しようという傾向が強くなるのは当然ともいえる。

40歳台以上の人々は娯楽に関して、若い世代ほど「タイパ」や「コスパ」を重視し

ないので、上記のような傾向があらわれにくいと考えられる。

回答例 b

動画配信サービスが提供する映画やドラマが早送り視聴されることが多いのは、動画配信サービス本来の特性によるところが大きいと考えられる。

一定の番組が一定の時間枠に放送されるテレビや、上映時間にあわせて映画館に向く必要があった旧来の動画視聴に対し、動画配信サービスは最初から「いつでも・どこでも・自分の選んだ」動画を視聴できることが強みであった。スマホなどの携帯端末で視聴されることが多いそれらの動画は、動画視聴における時間・場所・内容の制約をとりはらい、個人の都合のみによる視聴を可能にしたのである。

いつ・どこで・どの動画を視聴するか制約がなくなれば、次の段階として「どれだけの時間をかけて視聴するか」を個人の都合で決めるようになるのは、必然の結果ともいえよう。

これに対して、中年以上の世代で倍速視聴の傾向が弱いのは、長い期間をかけて根強い慣習となった旧来のメディアの視聴方法から逸脱することへの忌避感が、若い世代より強いためと考えられる。

以上